

【課題番号】 2MF-2402

【研究課題名】 サステナブルファイナンスの拡大とインパクトに関する研究：気候変動と生物多様性に焦点をあてて

【研究期間】 2024 年度（令和 6 年度）～2026 年度（令和 8 年度）

【研究代表者（所属機関）】 森田香菜子（慶應義塾大学）

研究の全体概要

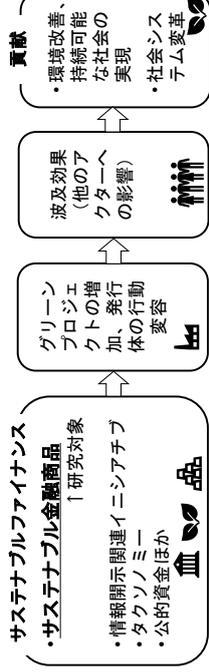
本研究の目的は、気候変動と生物多様性問題の解決に貢献するサステナブルファイナンスの資金動員の拡大と資金供給を実現することである。そのため、本研究ではサステナブルファイナンスの金融商品を通じた資金動員から、資金供給、気候変動や生物多様性の目標達成や社会システム変革といったインパクトまでの一連の流れを分析することで、それらの問題の解決に貢献するサステナブルファイナンスの資金動員の拡大と資金供給の要件やそれを実現する上でのガバナンスの課題やあり方を示す。経済学や国際政治学等の分析枠組や、先進国（欧米、日本）と途上国（アジア地域）の事例分析等を用いる、サステナブルファイナンスや気候変動・生物多様性等の政策への貢献に加え、超学際的なサステナブルファイナンス研究分野の確立を目指す。

全体の研究目標達成のため、本研究は3つのサブテーマで構成する。サブテーマ1では、サステナブルファイナンスの資金動員・供給から気候変動と生物多様性の環境目標達成や社会システム変革に影響を与えるまでの因果経路や、その中でのマルチレベルの制度やアクターの関係性をガバナンス研究の理論を基に分析する。さらに、サブテーマ2と3の成果と統合することで、サステナブルファイナンスによる気候変動や生物多様性目標や社会システム変革への効果を高めるためのガバナンスの課題やあり方を明らかにする。サステナブル金融商品を通じた資金動員・供給やインパクトに関わる課題や要件を明らかにするため、サブテーマ2ではサステナブル金融商品に関する投資家の関心や投資行動、発行体（企業）による行動の変容などを行動科学やガバナンス研究の理論等を用いて定性的に分析し、サブテーマ3ではサステナブル金融商品の資金動員や供給の傾向や、気候変動対策・生物多様性保全や社会システム変革への貢献などのインパクトを環境経済学等の手法やアンケート調査を用いて定量的に分析する。

サステナブルファイナンスの拡大とインパクトに関する研究： 気候変動と生物多様性に焦点をあてて

研究目標：

- 気候変動と生物多様性問題の解決に貢献するサステナブルファイナンスの資金動員拡大と資金供給の要件、それらを実現する上でのガバナンスの課題やあり方を示す。
- サステナブルファイナンスの超学際的な研究分野の確立を目指す。



サブテーマ1: 統括、サステナブルファイナンスに関わるマルチレベルガバナンスの研究

(慶應義塾大学、埼玉大学)

因果経路・ガバナンス分析

- 文献やインタビューデータを用いた、サステナブルファイナンスの資金動員・資金供給から環境目標達成や社会システム変革に影響を与えるまでの因果経路やそれに関わるガバナンスに関する分析
- サブテーマ2や3の成果と統合してガバナンスの課題やあり方を分析

サブテーマ2: サステナブル金融商品を通じた資金動員・供給やインパクトに関する定性的研究

(地球環境戦略研究機関)

質的分析

- 機関投資家や企業へのインタビュー等を基にしたサステナブル金融商品に関する投資家の関心や投資行動の実態、発行体による行動の変容などの定性的分析

サブテーマ3: サステナブル金融商品を通じた資金動員・供給やインパクトに関する定量的研究

(東洋大学、関西大学)

定量的分析

- データベースやアンケート調査のデータなどを用いた、サステナブル金融商品の資金動員や供給の傾向やインパクトに関する経済・統計的分析